

## 創世記 17:1-8

エル・シャダイ

- 1 さて、アブラムが九十九歳のとき、主はアブラムに現れ、こう言われた。  
「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。」
- 2 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。  
わたしは、あなたを大いに増やす。」
- 3 アブラムはひれ伏した。神は彼にこう告げられた。
- 4 「これが、あなたと結ぶわたしの契約である。  
あなたは多くの国民の父となる。」
- 5 あなたの名は、もはや、アブラムとは呼ばれない。  
あなたの名はアブラハムとなる。  
わたしがあなたを多くの国民の父とするからである。」
- 6 わたしは、あなたをますます子孫に富ませ、あなたをいくつもの国民とする。  
王たちが、あなたから出てくるだろう。」
- 7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、またあなたの後の子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。  
わたしは、あなたの神、あなたの後の子孫の神となる。」
- 8 わたしは、あなたの寄留の地、カナンを、あなたとあなたの後の子孫に永遠の所有として与える。  
わたしは彼らの神となる。」

ここで起こっていることを理解するために、次の4つを書き留めて下さい。  
ここはアブラハム契約の要約で、この契約は一方的な契約、無条件契約です。  
神が、「アブラハム、あなたのためにわたしはこれを行う。」と言われました。  
これまでも、12章や15章、他の様々な章でこれに触れましたね。  
しかしここで、その全てが1つに要約されたのです。

## 『アブラハム契約』

これは聖書預言と現在の時事に関係していて、非常に重要です。

特記すべき4つのこと。

## ① 原則

原則は恵みです。

これまでに読んだアブラハム契約の中で、神は24回言われました。

「わたしは～する。」「わたしは～する。」「わたしは～する。」「わたしは～する。」「わたしは～する。」  
言い換えれば、「神は～されます。」

15章で、アブラハムが眠ってしまったのを覚えていますか。

あの日、神と彼は契約を交わしていましたね。肉を切り分けて。

結局、神が現れる前にアブラハムが眠ってしまい、神は単独で最後まで進まれました。

「わたしはこれを行う。」

覚えていますか。

覚えていない方は過去の動画を観て下さい。大切な話です。

通常は両者が真ん中、中間で会い、共に手首を握りしめ、互いに約束して契約を交わします。

しかしこの場合、アブラハムは眠ってしまい、そこに神が来て言われました。

「わたしがこれを行う。あなたの行いではない。

あなたがわたしに誓ったり、わたしに約束をするのではない。

ただ単に、わたしの言葉を受け取りなさい。

アブラハム、あなたは約束をする側ではなく、約束を受け取る側だ。

わたしの約束を受け取りなさい。あなたのためにわたしは行おう。」

そうして、神ご自身だけで最後まで進まれました。

全ては恵みによるのです。

次のことを書き留めて、覚えていて下さい。

アブラムの名前はアブラハムに変えられました。

次に学びますが、サライの名前はサラに変えられます。

両方とも、同じ形で変えられました。

すなわち、ヘブル語文字（英語で言うアルファベット）の 5 番目が、それぞれの名前の真ん中に加えられたのです。

アブラムは今アブラハムになり、サライはサラになりました。

聖書で、数字の 5 は恵みを表します。

「わたしはこの契約の一部として、アブラハムよ、あなたの名前に、サラ、あなたの名前に、両方に置いた。そしてこの契約の全ては、あなたの働きや正しい行い、あなたのディボーションによるのではなく、ただ恵みによって、あなたがどういう者になるかを示しているのだ。」

恵みとは、受けるに値しない不相応な者に、一方的に与えられる好意です。

だから原則は恵み。

## ② 民族

これはユダヤ民族。

**わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、またあなたの後の子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。(創世記 17:7)**

この契約は神とアブラハムとの間だけではなく、神とアブラハムの子孫との間の契約です。

世代から世代、代々にわたって永遠に。

「そんなコト、どうでもイイ」と思うでしょう。

でも、今日（1998 年）の中東状況を分析すると、これがまさに実現しているのです。

「アブラハム、この契約は一個人の、あなただけのものではない。あなたの後に永遠に続く子孫のものだ。」  
ということで、アブラハム契約の原則は恵み。民族はユダヤ人。

## ③ 期間

期間は**創世記 17:8**、永遠。

**わたしは、あなたの寄留の地、カナンを、あなたとあなたの後の子孫に永遠の所有として与える。**

これから読む**エゼキエル 11 章**は重要なので書き留めて下さい。

ヤーセル・アラファトの主張は、「我々はパレスチナ人だ。パレスチナの地は我々のものだ。」

ユダヤ人のイスラエル国家は AD70 年に消滅した。ユダヤ人は去り、我々が自動的にあそこに入った。

だから今は、あの土地の権利は我々にある。」

## エゼキエル 11:17

それゆえ言え。

「神である主はこう言われる。

わたしはあなたがた（ユダヤ人）を諸国の民の中から集め、あなたがたが散らされていた（確かに AD70 年からユダヤ人は散らされました）国々からあなたがたを呼び寄せ、あなたがたにイスラエルの地を与える。」

言い換えれば「あなた方が散らされた後」

パレスチナ人は、「あなた方の聖書の観点では、ユダヤ人があの土地を所有していたかもしれない。

だがユダヤ人は失った。彼らはそこを追われて去って行ったのだ。」と言うでしょう。

しかし神は言います。

「これは永遠の契約だ。事実、わたしはあなた方を散らした後、諸国から連れ戻す。」

これ、分かりますか。

皆さんの時間を無駄に費やすつもりも、無駄に話をするつもりもありません。

これは注目すべき、重要な事実なのです。

今、パレスチナ人とイスラエル国家の間に緊張があり、議論がなされています。

神は、「たとえあなた方が散らされた後でも、わたしはあなた方を連れ戻し、イスラエルの地をあなた方に与える。それはあなた方のものだ。」

ところで歴史を学ぶ人たちは、次のことを理解しておいて下さい。

パレスチナ人や他の人たちは言うでしょう。

「ユダヤ人が AD70 年に追い出されたのは確かである。

その後、成功したローマ、トルコ、アラブ人、再びエジプト人、そしてまたトルコ、最後にイギリスという波が次々に押し寄せて、その地を占領した。

それからイスラエル国家ができたのだ。」

よく聞いて下さい。

アブラハム契約と「今日のあの土地は誰のものか」という問題に関して私たちが言うべきことは、「イスラエルの地の主権を最後に持っていた民族は誰か」「独立国家として統治していた人たちは誰か」です。

外国の植民地としてではなく、独立国家として主権を握り統治していたのは、自称パレスチナ人でも、アラブ人でもエジプト人でもない。

それはユダヤ人。

1948 年 5 月に国家になる前に、最後にあの地を統治していた民族はユダヤ人です。

しかし、イスラエルの民・ユダヤ人が支配権を失ったので、色んな国々や勢力がそこを征服しました。

ユダヤ人が支配権を失ったのはいつ？

（会衆； BC605 年）惜しい！

それは旧約聖書時代、バビロンによって支配権を失った時ですね。よくできました！

だけど、彼らが今の国家を持つ前は？

ほとんどの人は AD70 年、ローマが神殿を破壊し、エルサレムを陥落させた時だと答えます。

しかし彼らが主権を失ったのは、その時ではありません。

その前です。およそ AD12 年。

ローマは既に全地域を支配していましたが、AD12 年までは、イスラエルにはまだ自治権があり、主権国家と

して、ある範囲内で、自分たちで法を定めていました。  
しかし AD12 年、ローマが言いました。  
「ユダヤ人はあまりにも扱いにくいので、今から我々が最終的に支配する。  
つまり我々が立ち入って管理する。  
我々は、ユダヤ人が死刑を執行することを許可しない。」

これに関して以前話しましたね。  
創世記によれば、主権国家の政府の土台は何でしたか。  
「必要なら死刑を執行する」という機能です。  
それをローマが取り上げてしまった。  
AD12 年のその日、ラビたちはその意味を理解して、塵をまき散らし、衣を裂きました。  
エルサレムの路上でうろたえ、泣き叫び、絶叫した。  
「ユダヤ人の犯罪人をユダヤ人が死刑にできないということは、もはや我々に主権はないのだ。」  
「イスラエルの民は独立国家を失った。ローマが取り上げてしまった。」  
彼らが激しく憤った理由は愛国心からではなく、預言のためでした。

何の預言か。  
創世記 49 章は、王笏/王権について語っています。  
王笏は王が持つ物で、それで権威を与え、決断を下すのです。

#### 創世記 49:10

王権はユダを離れず、王笏はその足の間を離れない。  
ついには彼がシロに来て、諸国の民は彼に従う。

メシアが来るまでは、王権はユダを離れない。  
言い換えれば、メシアが来るまでユダ、エルサレムが権力、死活に関わることを統治する。  
決して権力を失わず支配する。メシアが来るまでは。  
しかしラビたちは言いました。  
「メシアはここにいない。だが我々は王笏/王権を失った。  
我々はもう、極めて重大な死刑という判決を下すことができない。  
それが我々の主権のカギとなるものなのに、その権利を失った！ 取り上げられたのだ！  
メシアはまだ来ていないのに！」  
彼らは知らなかったのです。

AD12 年のまさにその日、例祭の間、誰かさんが神殿に座って、神学者や律法学者、教師たちを、自分の御言葉の知識で打ち負かしていました。

それは誰？

歴史との見事な相互性で、ヨセフスがその話を書いています。

イエスが宮にいた話ではありませんよ。

その話は福音書（\*ルカ 2 章）に書いてあります。

ヨセフスは、AD12 年に起こったユダヤ人の主権剥奪という出来事の日付を伝えているのです。

ユダヤ人は、「我々は創世記に預言されていることを知っている。

それが成就しなかったとは、一体どういうことなんだ？」と思いました。  
 しかし彼らが知らなかったのは、まさに AD12 年のその日、イエスが神殿にいたということ。  
 メシアは来ていました。  
 こうして、預言が真実であることが証明されているのです。  
 王権は離れない。メシアが来るまでは。  
 そこに誰がいたでしょう。  
 メシアです。まさにその日、神殿に。  
 私はこういうのが大好き。それはともかくとして、  
 アブラハム契約の原則は恵み。  
 アブラハム契約の民族はユダヤ人。  
 アブラハム契約の期間は永遠。

### エゼキエル 11:17

「神である主はこう言われる。

わたしはあなたがた（ユダヤ人）を諸国の民の中から集め、あなたがたが散らされていた国々からあなたがたを呼び寄せ、あなたがたにイスラエルの地を与える。」

エゼキエルは告げています。

「ユダヤ人は散らされた後に戻って来て、イスラエルの地が永遠に与えられる。」

### ④ 場所

カナンの全土。

それは 30 万平方マイルの飛びぬけて素晴らしい土地。

その広大さは創世記 12・13・15 章に書いてあります。

彼らが領土を最も広げた偉大な帝国の時に、どれだけの土地があったでしょう。

（会衆；1/10）つまり？（会衆；3 万）

その通り。3 万平方マイルです。

最も拡大したソロモンの支配下でさえ、たった 1/10 しか取っていないのですよ。

しかし言うておきますが、彼らが相続の地の全てを得る時が来ている。

神がアブラハム契約を通して、「与える」と言われているのです。

契約が与えられて、その次に神がなされたことは想像を絶しますよ。

昨夜、この箇所に到達した時は（今夜よりもっと早い時間でしたが）、停電が起こってどうしようもなかったのでここで止めました。

今夜はもっと遅くなっているからもう終わりますが、次の学びには必ず来て下さい。

つづく

### 詩篇 107:1-3

1 「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」

2 主に贖われた者はそう 言え。主は彼らを敵の手から贖い

3 国々から彼らを集められた。東からも西からも 北からも南からも。

「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波

DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

※インターネットのメッセージを文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。  
どうか、りょくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。